

富山県福岡町
石名田木舟遺跡

第3次発掘調査報告書

1996年3月

福岡町教育委員会

序

福岡町は、富山県の最北西部に位置する町で、東と南には砺波平野が広がり、西は宝達山を主峰として能登半島に連なる山並みがそびえ、石川県に接しています。また、古くより交通の要衝であり、砺波平野の支配の拠点として歴史上に姿を現しております。

石名田木舟遺跡の平成6年度調査では、全国的に見ても古く、大きく、飛鳥様式壇崩し高欄を巡らす瓦塔が発見され、考古資料としてのみならず、建築史、仏教史の資料としても貴重なものとして注目されました。

今年度の調査においても、時代を同じくする多くの遺構、遺物が発見されております。この報告書が、当地域における古代史研究にいささかでも資することを願っています。

調査の実施にあたっては、富山県土木部のご理解のもと、富山県埋蔵文化財センターから調査員の派遣並びに調査指導を受けました。また、地元関係者各位のご援助、ご協力を頂きました。報告書の刊行にあたり、厚くお礼申し上げます。

平成8年3月

福岡町教育委員会
教育長 皆月弘行

例言

- 1 本書は、福岡町教育委員会が、平成7年（1995年）7月から同年8月にかけて実施した石名田木舟遺跡（遺跡北側地区）の第3次埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査地区の所在地は、福岡町木舟328ほかである。
- 3 調査は、福岡町木舟地内的一般県道西中大滝線道路改良事業に伴う埋蔵文化財発掘調査として、県土木部の依頼により福岡町教育委員会が調査主体となり実施した。
- 4 発掘調査及び遺物整理作業などの実施にあたっては、福岡町教育委員会が富山県教育委員会・富山県埋蔵文化財センターに調査員の派遣などを依頼して行った。
- 5 調査事務は、福岡町教育委員会が担当し、社会教育主事藤田辰昭が調査事務を行い、教育次長吉国修一・社会教育課長藤森寿が総括した。
- 6 調査遺跡の面積・期間・担当者等は、以下のとおりである。調査期間：平成7年7月10日～8月24日までの19日間 調査担当者：富山県埋蔵文化財センター 調査課主任神保孝造・橋本正春 調査面積：540m² 所在地：福岡町木舟328ほか
- 7 本書の編集は、福岡町教育委員会が行い、本書の執筆は橋本が行った。
- 8 図版などと遺物整理作業などは、橋本が担当し、次の諸氏の協力を得た。林慶子・杉本英子・廣岡恵美子・荒山奈美恵・牧野圭恵・田島美和子。また、発掘調査にあたっては、福岡町・高岡市・砺波市・小矢部市シルバー人材センター、木舟自治会などの協力を得た。
- 9 本書の作成までにあたっては、下記の諸機関・諸氏の貴重な指導・助言をいただいた。記して謝意を表します。
大脇潔・松本修自・前島巳基・吉岡康暢・岡本淳一郎・佐賀和美・安念幹倫・島田修一・山口辰一・荒井隆・吉井亮一・伊藤隆三・藤田富士夫・齊藤隆・高橋真実（敬称省略・順序不同）。
- 10 図版類の縮尺は、図版下などに示した。方位は真北を、高さは標高を用いた。航空写真と図面の一部の作成については、アジア航測株式会社が請負った。遺跡座標X240Y310の国家座標はX76480.001Y-22480.001であり、遺跡のX軸は真北である。表中では、言葉を省略して表現したところがある。土層の色名などは、日本土壤学会発刊「標準土色帳」に基づき、また、同書で使用されている分類・略号などにより記録し、本書で用いた。
- 11 平成7年度の発掘調査関係の資料及び出土遺物は、富山県埋蔵文化財センターが保管する。

本文目次

I 序章	1
1 遺跡の位置と環境	1
2 調査に至るまで	1
3 調査の経過	1
II 調査結果	2
1 遺構と遺物	
(1) 古代	2
(2) 中世	2
2 まとめ	4
III 参考文献	4

表 目 次

表 1 工程表	
表 2 日誌抄	
表 3 石名田木舟遺跡調査一覧	
表 4 遺構及び出土物一覧表	
表 5 植物遺存体一覧	
表 6 調査結果一覧	

図版目次

第 1 図 位置 (1/25,000)	
第 2 図 調査区位置図	
第 3 図 遺構概略図	
第 4 図 遺構実測図	
第 5 図 遺物実測図	
第 6 図 遺物出土状況	

写真図版目次

図版 1 遺跡全景	
図版 2 調査区全景	
図版 3 西地区	
図版 4 東地区	
図版 5 出土遺物	
図版 6 出土遺物	
図版 7 参考写真 平成 6・7 年度調査区全景	

I 序章

1 遺跡の位置と環境

遺跡は、富山県小矢部市石名田地区と福岡町木舟地区にまたがり所在するもので、平成7年度の調査地点は遺跡北側にあたり、平成6年度調査区南を狭んでいる（第2図参照）。小矢部市と福岡町は、県西部に位置し両市町の東には砺波平野が広がる。遺跡は、町東の平野部の微高地上に所在し、標高は22M前後である。

福岡町の遺跡は、平成5年度現在87遺跡があり、先土器時代の小野ワラビ畑出土の石器群、縄文時代の上野A遺跡、古墳時代の城ヶ平横穴古墳群などがある〔福岡町1969〕。

本遺跡は、平成2年度春に実施した県と小矢部市の分布調査で発見された遺跡である〔小矢部市教委1991〕。その後、福岡町を含めた試掘調査や記録保存調査が行われている〔橋本1995〕。

2 調査に至るまで

一般県道西中大滝線は、能越道福岡ICに接続する密接道路関連事業として改良工事が計画されたもので、工事実施前に富山県埋蔵文化財センター（以下センターと略す）と町教委は、工事関係者と協議し、工事前に記録保存調査を行うこととした。調査は、町教委に埋蔵文化財担当専門職員がいないので、センターに調査員の派遣を依頼し、町教委が調査主体となり平成7年早々に実施することとし、センターは事前に現地を確認した。

3 調査の経過

町教委は、6月から調査準備に入り、6月中旬には道路の盛土などを除去し、7月から人力包含層掘削を始めた。調査地区は、平成6年度調査区を狭んで東西二地区に別れるため。西地区から調査を開始した。8月からは、遺構掘と記録を行った。8月24日に終了報告を行ない、現地の調査を終えた。遺物の水洗は、調査中に行なったが、遺物の土壤水洗は9月22日までかかった。また、注記は、その後に行い、センターで遺物整理と報告書作成作業を実施した。

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
本調査	準備	人力掘削	記録・写真							
報告書		土壤水洗	遺物水洗	注記	図面整理	報告書	業者選定		印刷	納入

表1 工程表

4月25日	福岡町・センター打合	4月26日	現地下見	6月22日～	道路盛土除去
6月28日～	調査準備	7月10日～	西地区人力掘削開始	7月18日～	土壤水洗
7月20日～	遺物水洗	7月20日～	遺物注記	7月27日～	東地区人力掘削開始
8月4日～	記録・写真	8月10日	航空測量	8月24日	終了打合
10月～	図面整理	12月～	報告書作成		

表2 日誌抄

調査年	遺跡名	調査主体他
1981年 昭和56年	木舟城跡	福岡町教育委員会 遺構の有無確認
1987年 昭和62年	木舟城跡	福岡町教育委員会 試掘調査
1992年 平成4年	能越自動車道 A-03遺跡	県センター 試掘調査 石名田・木舟遺跡と命名
1993年 平成5年	石名田木舟遺跡 西中・大滝No1遺跡(石名田木舟遺跡)	県センター 他 本調査 福岡町教育委員会 試掘調査
1994年 平成6年	石名田木舟遺跡	県センター 他 本調査

表3 石名田木舟遺跡調査一覧

II 調査結果

調査区は、平成6年度調査区を狭んで二地区となるため、第2図のように東地区と西地区にわけた。

遺構と遺物は、中世が多く、古代のものは少なかった。遺構は、古代の土坑・溝、中世の土坑・溝などが検出された。遺物は、土師器・須恵器・珠洲・越前・土師質土器・陶磁器・木製品・金属器などで、整理箱10箱出土した。

地形は、両地区ともに平坦で、古代と中世の遺構検出面(地山)は、砂礫層と砂層である。第1層は、表土で60cmで、第2層遺物包含層は黒褐色を呈し、両地区共に部分的にしか認められなかった。もしかすると後世の削平があり、包含層と地山は削られているのかも知れない。第3層は地山層で明黄色砂礫層と砂層である。

本書で掲載した遺物には、全て通し番号を付与している。

1 遺構と遺物

(1) 古代(第3～6図、図版3・5・6)

古代の遺構は、西地区で土坑SK2、東地区で土坑SK17と溝SD19の3個が検出された。

土坑(SK) SK2は、西地区東側にあり、SD1の南でSK7の西に位置する柱穴状の穴で、土師器破片が出土した。直径は、50CM、深さ10CMである。

SK17は、東地区中央にあり、SD18の東でSK16の南に位置する柱穴状穴で、須恵器杯蓋と杯身が出土した。直径は、50CM、深さ25CMである。須恵器杯蓋29は、つまみと口縁部を欠き、つまみと端部の形態が不明であるものの頂部から体部が稜線を持って直線上に折れ曲がるため、時期は8C代とする。

溝(SD) SD19は、東地区中央部のSK20から、西に西に伸びているが、遺構の西端は、SD21に達しており、さらに伸びるかは不明である。幅は、130CMで、深さ4.8Mの浅い「」字状である。ここからは、須恵器甕胴部破片30が出土している。

その他遺構外出土遺物では、須恵器杯蓋・杯身・甕・壺・土師器甕などがあり、図示できるものは第5図と図版5で示した。57は、土師器高杯脚部破片で、外面が赤く塗られており、古墳時代後期である。33～35は、須恵器杯蓋で、33は内面に返りを持つもので特徴などから7C代である。34は、端部が丸く、35は端部が三角形状に細く終わるもので特徴などから8C代である。36は、須恵器杯身で、38は甕破片である。

(2) 中世(第2・3・8図、図版1・3・6・11)

中世に属する遺構は、土坑・溝で、西地区の大半の遺構が該当し、東地区では古代と同数で、他は出土遺物がなく不明である。

土坑(SK) SK3は、西地区の中央部にあり、SD1の南に位置し、規模は直径120CM、深さ35CMの円形を呈する。出土遺物には、土師器・須恵器甕・製塙土器の他に不明植物・種子がある。26は、須恵器甕破片で、81左はヒヨウタンの種子、右2個はウリの種子である。これら植物遺存体の同定については、立山博物館吉井良一氏の教示を受けて特定している。82は、不明の植物遺存体で、84は炭である。

SK4は、西地区の中央部にあり、SK5の東に位置し、穴が2個重複しているらしく二段となり、南側が浅く、方形を呈している。この土坑は、西地区の中で一番整然としていた。規模は長軸190CM短軸160CM深さ42CMで、南の浅い方は深さが12CMである。出土遺物には、土師器甕、須恵器杯蓋・杯身・甕、土師小皿、陶磁器、炭化物がある。20は、須恵器杯蓋破片で、内面に返りを持ち、内面には墨の痕跡があり、硯として使用された可能性がある。時期は、8C代である。21・22は須恵器甕破片で、23～25は12C代の土師小皿破片で、84は炭である。

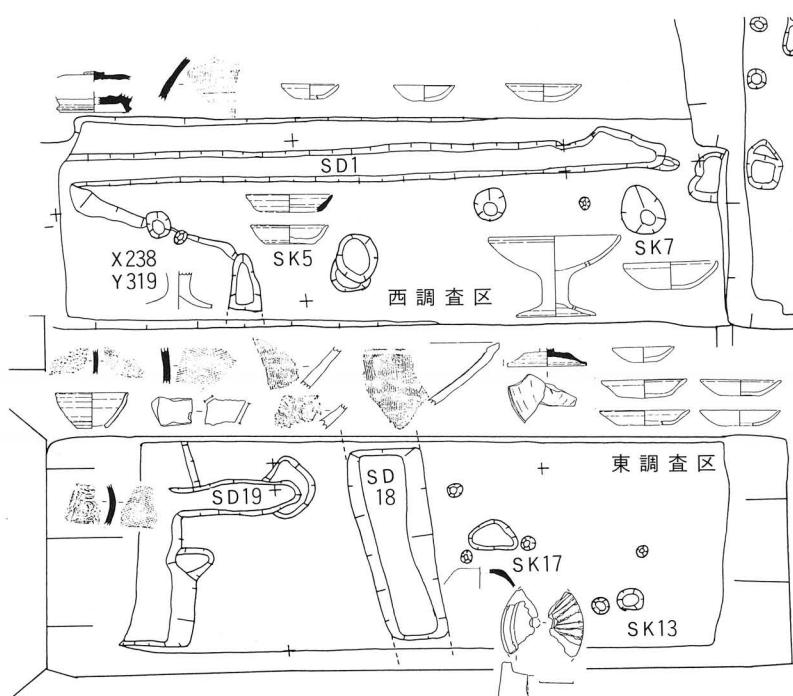
S K 5 は、西地区にあり、S D 9 の東に位置している。規模は、長軸210 C M 短軸130 C M 深さ46 C M であり、長方形である。遺物には、土師器甕・赤彩土器、須恵器杯身、土師小皿、製塩土器などがあり、31はC代の須恵器杯身で、体部が直線的に斜め上方に伸びる。32は、土師小皿で、口縁部と内面には煤が付着し、時期はC代である。

S K 6 は、西地区西にあり、S D 9 の北に位置している。規模は、直径100 C M、深さ30 C M の円形である。遺物は、27・28の製塩土器破片が出ている。

S K 7 は、西地区東にあり、S K 2 と S K 8 の間にある。規模は、長軸200 C M 短軸150 C M 深さ20 C M で円形を基本としている。出土遺物は、土師器高壺・器台・甕、土師小皿、製塩土器がある。51は、土師器高壺で、全体がつながっていないが、器形や特徴などから同一個体である。杯部口縁は、椀状に緩やかに斜め上方に丸く伸び、端部をつまみ、外面を直線上にしている。脚部は、一直線でさがり、途中から、「ハ」の字状に直線的に開く。外面全体と杯内部の一部に朱が塗布されており、赤い。外面は、丁寧なヘラ磨きがなされている。52は、土師器甕口縁部、54は土師器甕胴部破片である。これらの土師器の時期は、第1様式とする。53は、土師器椀で内面が黒色である。他に甕破片などがある。

S K 13 は、東地区中央にあり、S K 16 の東にあり、小柱穴状である。規模は、直径65 C M 深さ65 C M と深く、円形を呈し、内部に石臼があった。65は、直径が30 C M 前後と推定される石臼で、柔らかそうな石を加工している。穴が1個みられ、供給用の穴である。裏面には、主と副溝による放射状の目があり、挽き臼の上臼である。時期は、中世と推定される。

溝(S D) S D 1 は、西地区北側にあり、規模は幅120 C M 長22.2 M 深さ35 C M で、東西方向に伸びている。西端は、自然地形に近いS K 9 に達しているため明瞭でないが、未調査区側の西に伸びると推定され、東端はS K 8 の西で止まる。溝の断面形状は「L」字状で浅い。出土遺物は、土師器、土師小皿、不明土製品、須恵器、越前、金属製品、窯壁、フイゴ羽口、炭化物、種子、陶磁器、骨、石があり、多種で、西地区では遺物量が最も多い。4と1～3は、須恵器杯蓋で、4は口縁端部を欠き、1～3は頂部を欠く。1は内面に細く伸びる返りを持つ。5は、須恵器杯身で、内面に黒の痕跡がある。8は、須恵器壺底部破片で、胴部から上を欠き、外に開く高台がある。6・7・9・10は、



第6図遺物出土状況

須恵器甕破片である。9は、口縁端部を欠く破片で棒状具でやや斜めの長軸の沈線を巡らしている。11は、薄く、良い胎土で、小さい須恵器で、器種は小壺の蓋か合子であろう。外面には自然釉と思われる上油が見られる。12は、須恵器壺であり、11同様に精良品である。13は、須恵器壺蓋とみられる破片である。13は、S D 1 近くの出土であるが、11同様に精良品であるため、ここで扱った。11～13は、綠釉に近く仏具の可能性がある。須恵器の時期は、1が8 C代中頃で、他は、8 C代後半である。14は、土師器甕破片で、16は内黒土器破片で、15は赤彩土器破片である。14～16は、12 C代であろう。58～

60と18・19は土師小皿で、58～60はほぼ完形であり、口縁端部に煤が付着している例が多く、灯明皿で、12C代である。18の底部外面には、糸切り痕跡が残る。71は、バラ科モモの核で、数十点（破片を含む）あり、形態が中世以降に見られる新しいタイプが多くある。一部に県内の弥生時代など古代に出土している旧いタイプもある。破片のもので、人為的に割碎の可能性がある例があり、中の「仁」を利用して（食）していた可能性もある。参考例となるが、「桃仁」は生薬として用いられた記録が延喜式中にある。7は、ヒヨウタン仲間の種子で、これも数十点ある。種子が短軸に切断されている例があるため利用（食）していた可能性がある。73は、ウリ科の種子で、これも多い。74は、エゴノキ科エゴノキの種子、75はアサの種皮、11は炭化したイネ科イネ、77はヒメビシの果実（石果）、78はトチノキ科トチノキの外果皮裂片である。他に、不明土製品、越前、古銭、釘、鉄さい、窯壁とフイゴ羽口64、炭化物83、陶磁器、骨、石などがある。

S D18は、東地区の中央にあり、規模は幅290CM長7.1M深さ60CMである。溝は、南北方向で、それぞれ未調査区側に伸びる。断面形は、一字状で、比較的浅いといえる。出土遺物は、土師器、須恵器、珠洲、越前、陶磁器、土師小皿、砥石、金属製品、骨、木製品、種子41は、須恵器杯蓋で、頂部つまみの上が欠けている破片で、内面にヘラ先による一条の筋がある。小破片ではあるが、内面に返りのある破片もある。42・43は、須恵器甕胴部破片で、43は外面に縁釉に近い自然釉がかかっており、S D 1 のものに近い。他に須恵器の杯身や壺破片があり、大半の時期は8C代である。44・46・61～63は、土師小皿で、46は糸切り底で、口縁部に煤が付着するものもある。時期は、12C代である。47は、珠洲の擂鉢破片で珠洲第2期である。48・49は、越前の擂鉢破片で、58は瀬戸の茶碗で、50は砥石であり、時期は中世である。66は、鎧の縦長破片で、形状から草摺もしくは袖部分などらしく、中世であろう。67・68は、細長い木製品で、69は漆塗りの椀で、70は箸である。時期は中世であろう。85は、古銭の開元通宝で、87は文字が不鮮明であり、景祐元宝の可能性がある。79は、栗の外皮で、80はバラ科モモの核で中世以降のタイプである。他に土師器で赤彩された土器、越前鉢、陶磁器、釘、骨（頭・手足骨）、下駄などがあり、土師器以外は中世である。

S D21は、東地区西端にあり、南北に伸びている。また、遺構の西端は、河川と橋により未掘で、確認していない。規模は、幅220CM長7.6M深さ31CMで、南北に伸びており、未調査区側にさらに伸びる。

これらの他に、時期不明の土坑と溝があり、西地区ではSK 8・9、東地区ではSK 10～16などがあるが、いずれも遺物を出土していない。表採品ではあるが88の古銭がある。

2 まとめ

今回の調査では、古代と中世の土坑・溝が検出され、平成6年度調査時の内容と同様の遺構・遺物が確認されたこととなり、集落の一部といえよう。遺物の時期は、破片が多いため、特定しなかったものがある。

以下に、調査内容を表でまとめておく。

古代	遺構	土坑・溝
	遺物	須恵器杯蓋・杯身・甕・壺・椀・壺蓋・合子？・土師器甕・高杯・器台・内黒土器・製塙土器・赤彩土器
中世	遺構	土坑・溝
	遺物	不明植物・種子・炭・土師小皿・陶磁器・炭化物石臼・越前擂鉢・鉢・金属製品・窯壁・フイゴ羽口・骨・石・不明土製品・古銭（開元通宝・景祐元宝？）・釘・鉄鋌・珠洲擂鉢・砥石・鎧（草摺？破片）・漆塗椀・箸・下駄

表6 調査結果一覧

III 参考文献

- 小矢部市教育委員会 1991 「富山県小矢部市能越自動車道関係遺跡群試掘調査報告」
 富山県 1976 「富山県史 通史編1 原始・古代」
 富山県 1972 「富山県史 考古編」 富山県埋蔵文化財センター 1993 「富山県埋蔵文化財包蔵地図」
 富山県埋蔵文化財センター 1992 「平成3年度年報」 富山県埋蔵文化財センター 1994年
 富山県埋蔵文化財センター 1993 「平成4年度年報」 富山県埋蔵文化財センター 1994年
 富山県埋蔵文化財センター 1994 「平成5年度年報」 富山県埋蔵文化財センター 1994年
 富山県埋蔵文化財センター 1995 「平成6年度年報」 富山県埋蔵文化財センター 1994年
 福岡町 1969 「福岡町史」
 橋本正春他 1995 「富山県福岡町石名木舟遺跡発掘調査報告書」 富山県埋蔵文化財センター・福岡町教育委員会

表4 遺構及び出土物一覧

遺構

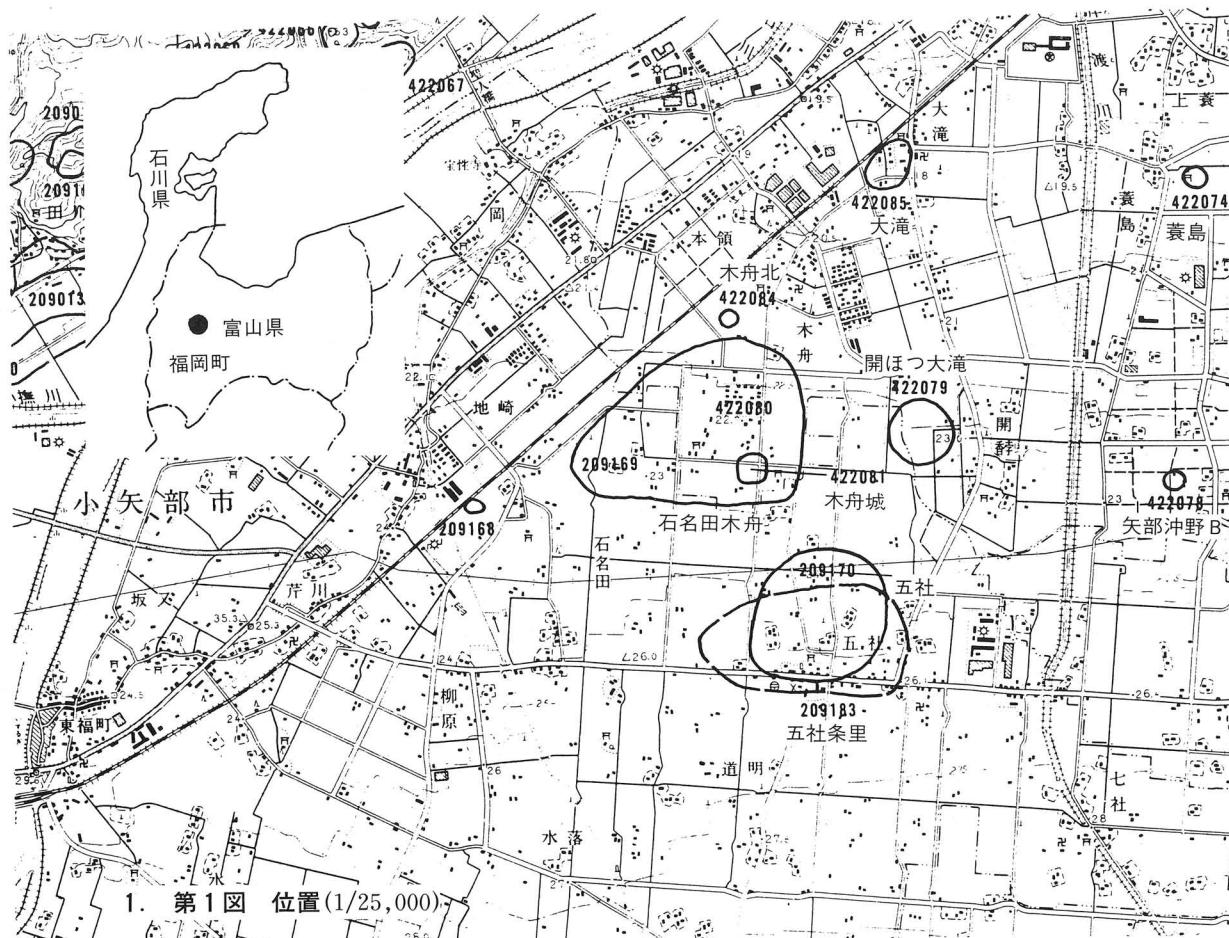
番号	種類	X	Y	時期 形状 規模 出土 遺物 他
1	S D 1	240～241	316～327	幅120CM長22.2M深さ35CM 中世 東西 土師器・内黒土器・赤彩土器・甕、土師小皿、不明土製品、須恵器杯蓋・杯身(内面に黒痕跡)・壺・壺蓋?・壺(縄釉系:仏具?)・甕、越前、古錢、釘、鉄鋸、窯壁、フイゴ羽口、炭化物、種子(モモ、ウリ、トチノキ、エゴノキ、ヒヨウタン、イネ、アサ)、陶磁器、骨、石
2	S K 2	240	326	直径50CM深さ10CM 古代 円形 土師器
3	S K 3	240	324	直径120CM深さ35CM 中世 円形 土師器、須恵器甕、製塩土器、不明植物、種子(ヒヨウタン・ウリ)
4	S K 4	239	321・322	長軸220CM短軸160CM深さ12CM・長軸190CM短軸160CM深さ42CM 中世 方形 土師器、甕、須恵器杯蓋(内面墨痕跡)・杯身・甕、土師小皿、陶磁器、炭化物
5	S K 5	239	319	長軸210CM短軸130CM深さ46CM 中世 長方形(溝?) 土師器甕・赤彩土器、須恵器杯身、土師小皿、製塩土器
6	S K 6	240	318	直径100CM深さ30CM 中世 円形 製塩土器
7	S K 7	239	327	長軸200CM短軸150CM深さ20CM 中世 円形 土師器高杯・器台・甕・椀、土師小皿、製塩土器
8	S K 8	241	328	長軸190CM短軸110CM深さ30CM 不明 不定形
9	S K 9	238～320	316～320	長軸650CM短軸470CM深さ20CM 不明 東西
10	S K 10	240	318	直径50CM深さ15CM 不明 円形
11	S K 11	236	352	直径100CM深さ26CM 不明 円形
12	S K 12	237	352	直径45CM深さ20CM 不明 円形
13	S K 13	236	351	直径65CM深さ65CM 中世 円形 石臼
14	S K 14	237	350	直径50CM深さ35CM 不明 円形
15	S K 15	239	349	直径55CM深さ16CM 不明 円形
16	S K 16	237～238	349～350	長軸180CM短軸110CM深さ10CM 不明 不定形
17	S K 17	237	349	直径50CM深さ25CM 古代 円形 須恵器杯蓋・杯身
18	S D 18	236～240	347・348	幅290CM長7.1M深さ60CM 中世 東西 土師器甕・赤彩土器、須恵器杯蓋・杯身・壺・甕、珠洲播鉢、越前鉢・播鉢、陶磁器、土師小皿、砥石、古錢2枚(開元通宝)、釘、鎧、骨(頭・手足骨)、木製品(箸・下駄・板・漆塗椀)、種子(モモ核、栗外皮)
19	S D 19	238～239	343～346	幅130CM長4.8M深さ31CM 古代 東西 須恵器甕
20	S K 20	238～239	346	長軸230CM短軸190CM深さ15CM 不明 方形?
21	S D 21	236～240	343	幅220CM長7.6M深さ31CM 不明 南北

遺構外

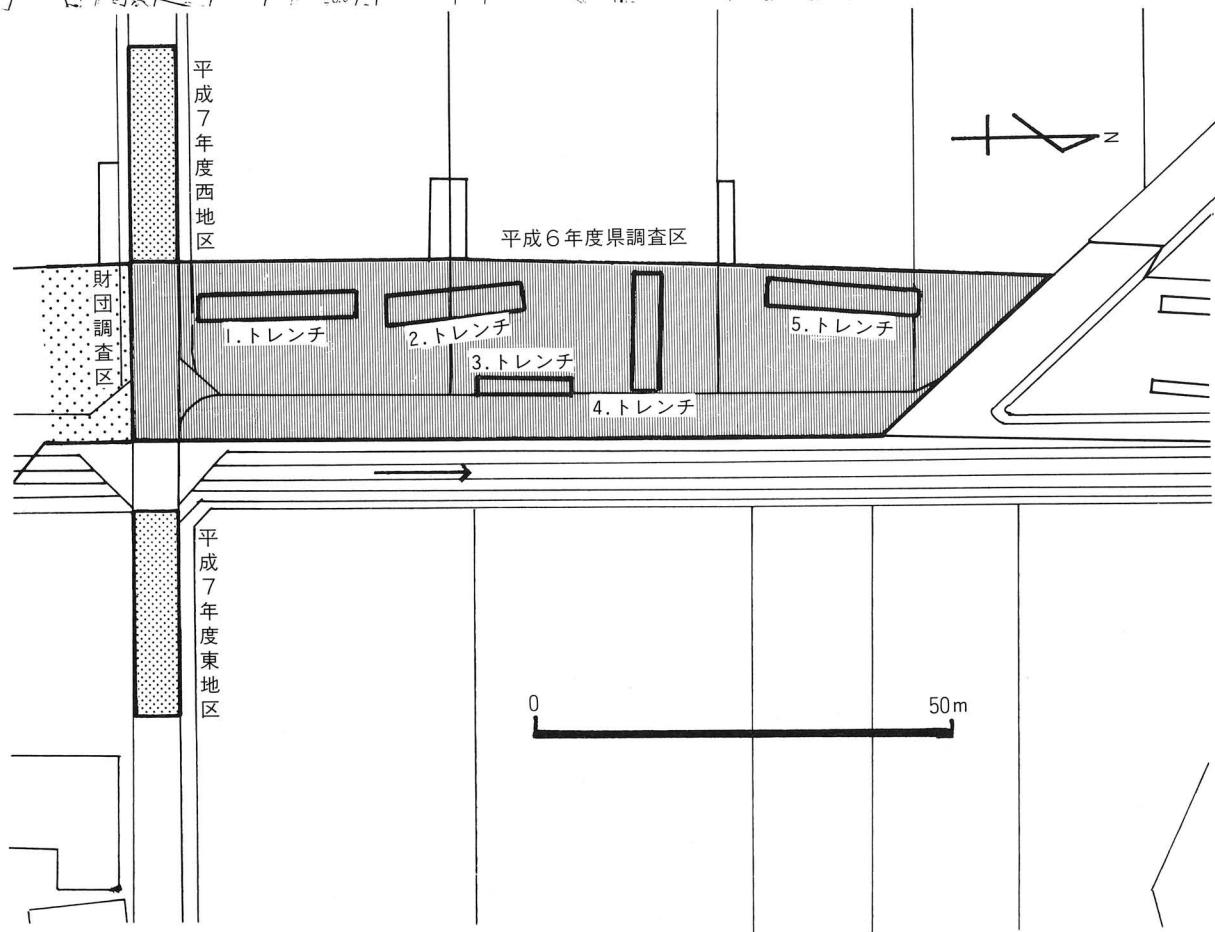
X	Y	出土 遺物 他	X	Y	出土 遺物 他
236	313	土師器甕、須恵器杯蓋・杯身	240	316	土師器
236	348	須恵器杯蓋・杯身・転用硯?	240	320	土師器甕
237	350	珠洲鉢	240	325	土師器、土師小皿、陶磁器、製塩土器
238	317	土師器龜・赤彩土器、須恵器杯身	240	328	土師器甕
238	319	土師器龜・高杯・赤彩土器	241	314	陶磁器
238	327	須恵器杯蓋	241	316	須恵器杯蓋・杯身・墨痕跡?
238	343	須恵器杯身	241	320	土師器甕・赤彩土器・土器、須恵器杯蓋・杯身・甕
238	347	土師器甕、須恵器杯蓋・杯身・壺・甕、陶磁器、骨(手足骨)	241	323	土師器甕、須恵器杯身・甕、陶磁器
239	316	土師器甕、須恵器杯蓋・杯身・製塩土器	241	325	土師小皿
239	317	土師器甕、赤彩土器・彩土器、製塩土器	241	327	須恵器杯蓋・壺・合子?
239	318	土師器甕、土師小皿	242	316	須恵器甕
239	319	土師器甕	表形		土師器甕、須恵器杯身・壺・甕、土師小皿、陶磁器、古錢(半分)

表5 石名田木舟遺跡出土の植物遺存体一覧

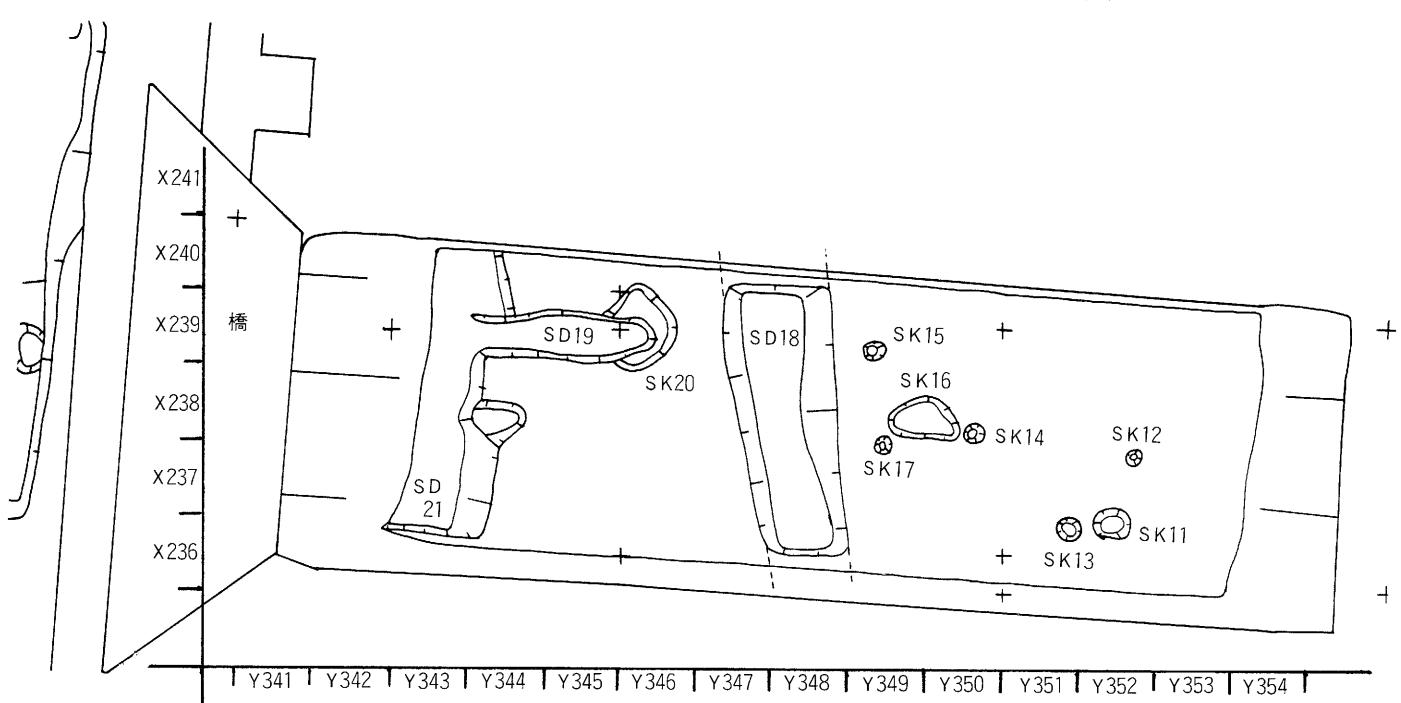
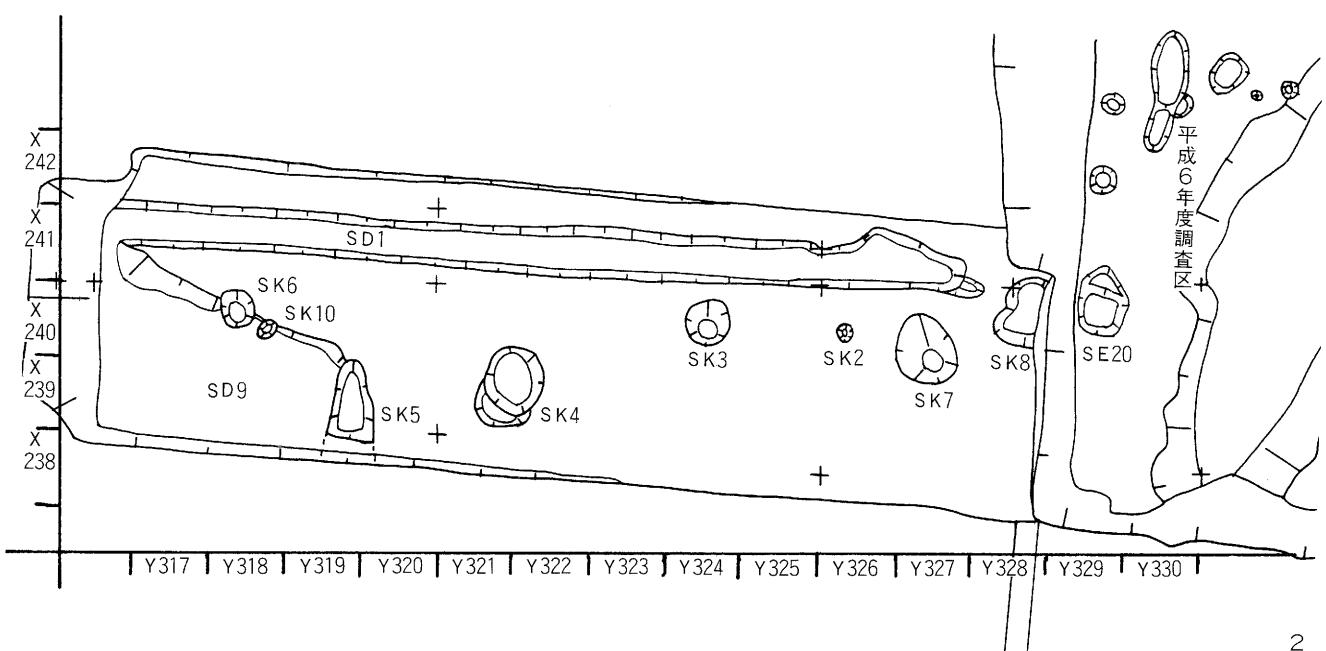
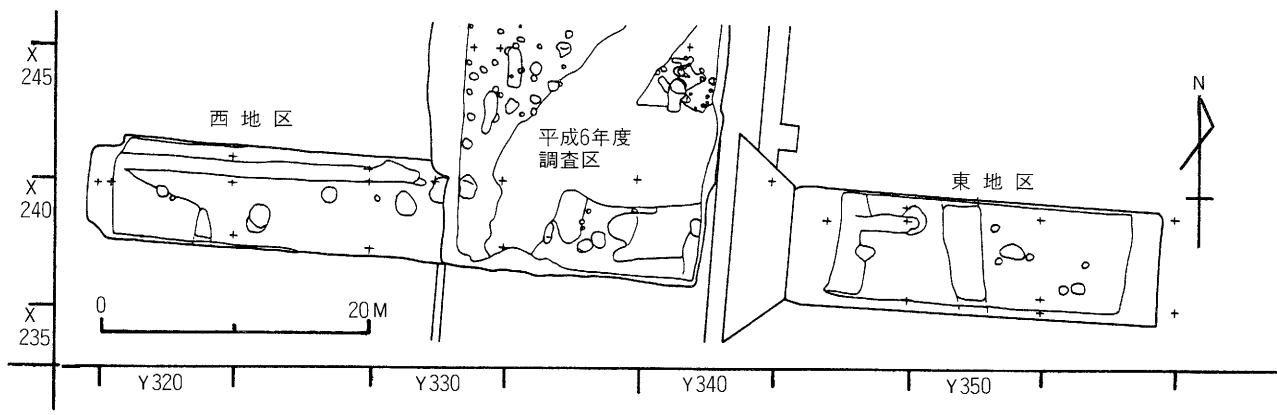
名称	形状他	名称	形状他	名称	形状他	名称	形状他	名称	形状他
モモ	核	ヒヨウタン	種子	アサ	種皮	イネ	瘦果	ウリ	種子
エゴノキ	種子	ヒメビシ	果実(石果)	トチノキ	外果皮裂片				



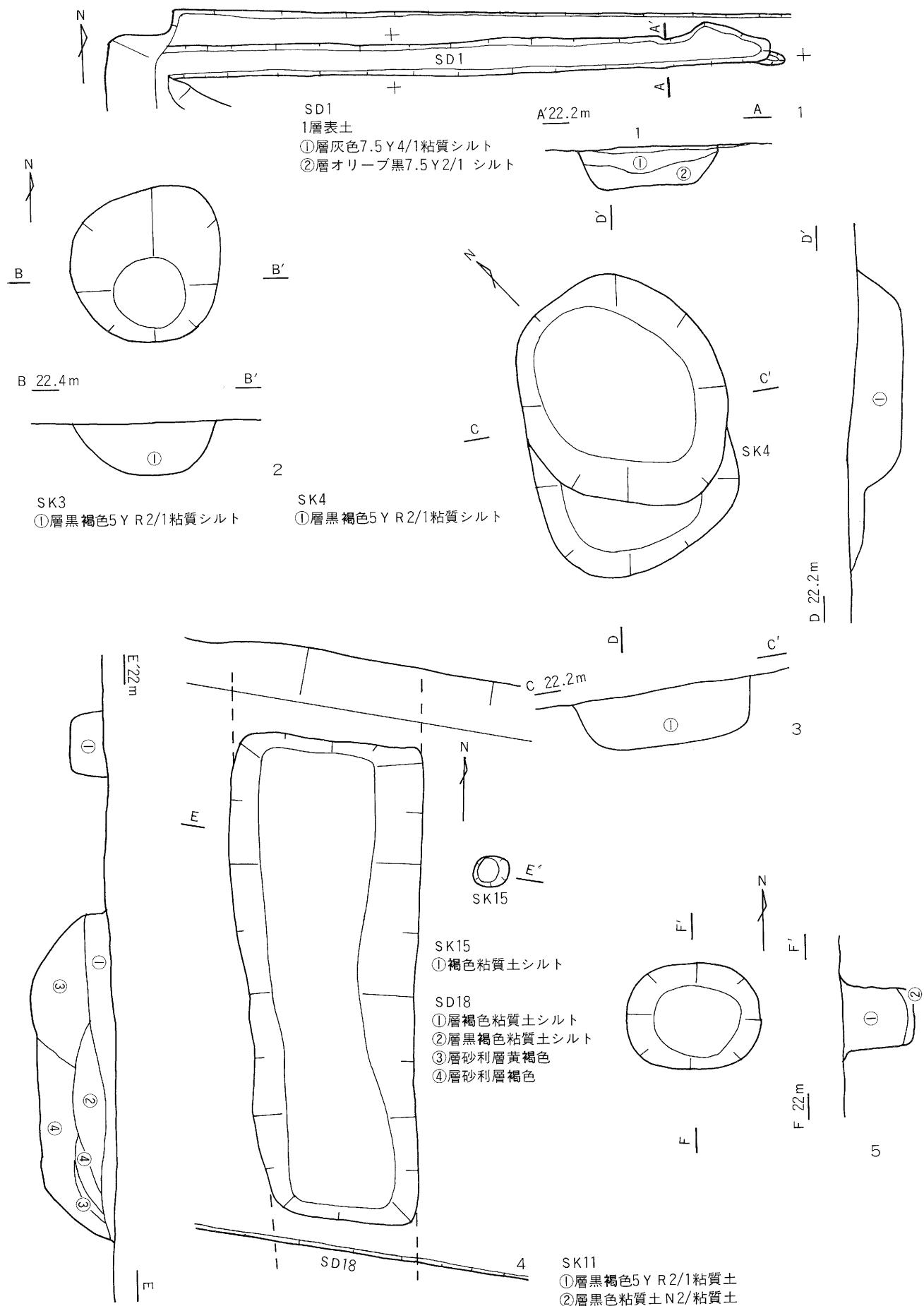
1. 第1図 位置(1/25,000)



2. 第2図 調査区位置図

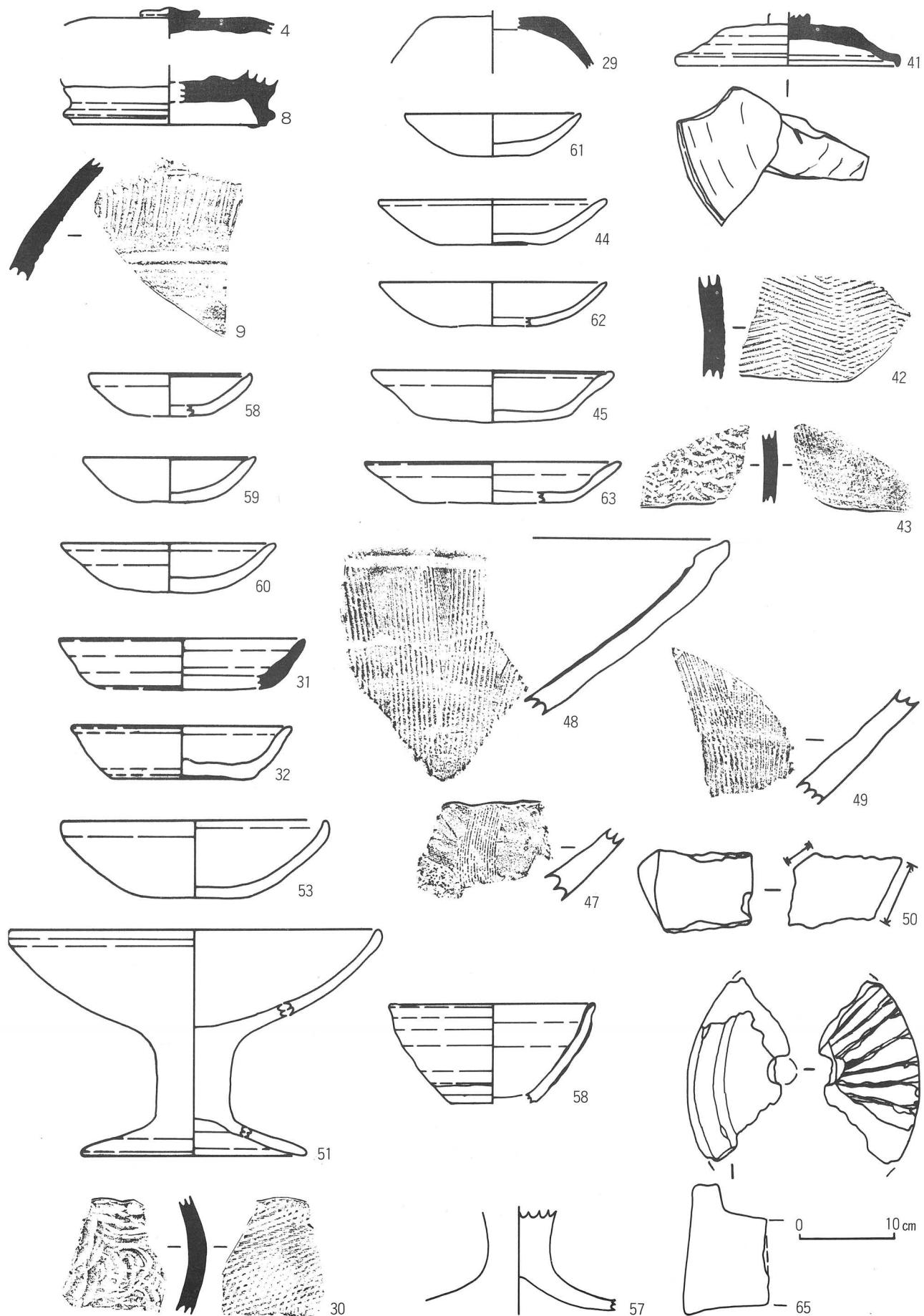


第3図 遺構概略図 1.全体 2.西地区 3.東地区



第4図 遺構実測図 1 SD1 2 SK3 3 SK4 4 SK15・SD18 5 SK11

(SD1平面図1/100、SK15・SD18平面図1/80、他1/40)



第5図 遺物実測図 約 $\frac{1}{3}$ 4・8・9・58～60: SD1 31・32: SK5 57・53: SK7 30: SK19 29: SK17
41～45・47～50・58・61～63: SK18 65: SK13 57: X 238 Y 319(13は約 $\frac{1}{5}$)



1



2

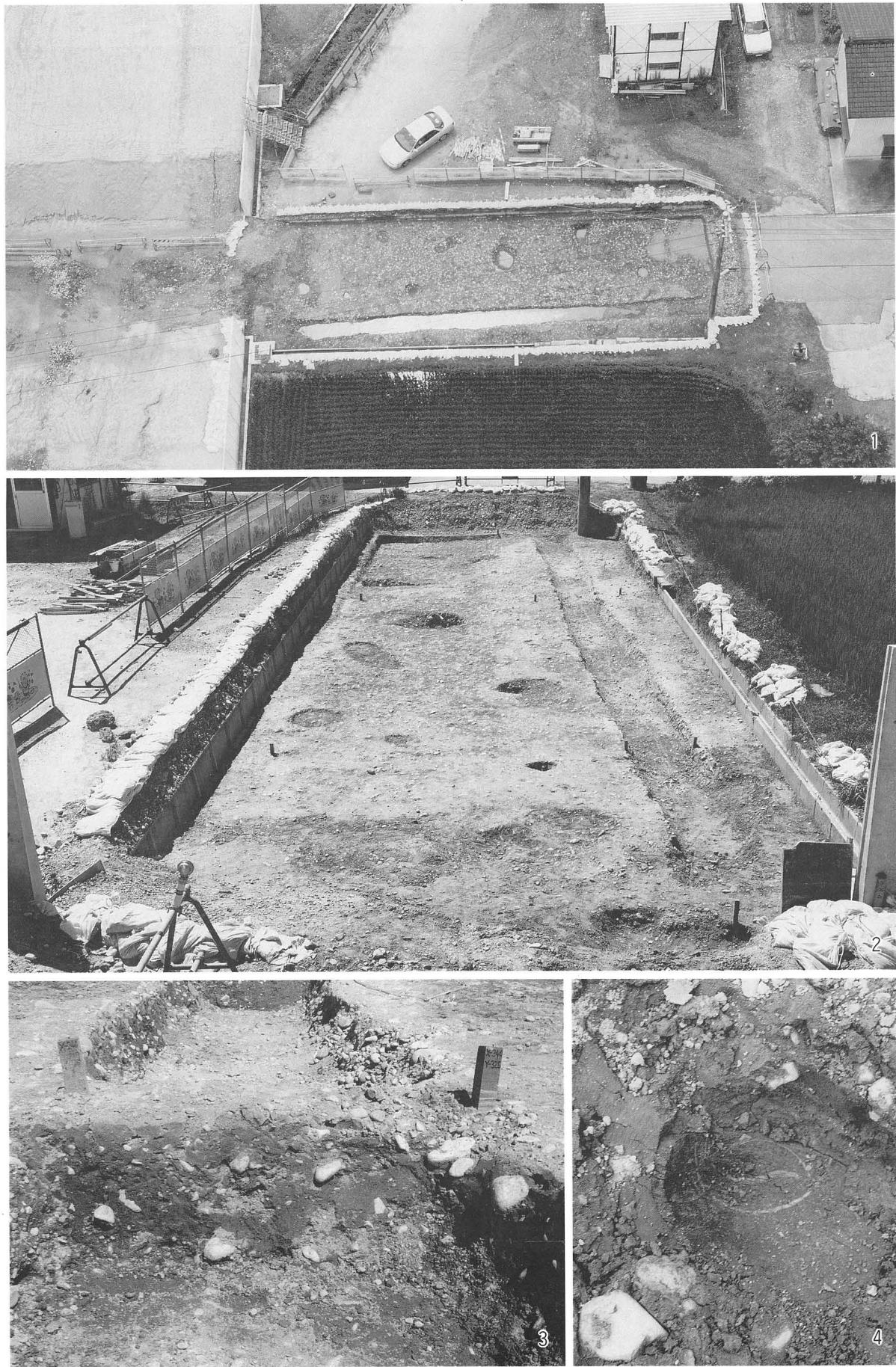


3

図版1 遺跡全景 1.東より 2.西より 3.北より



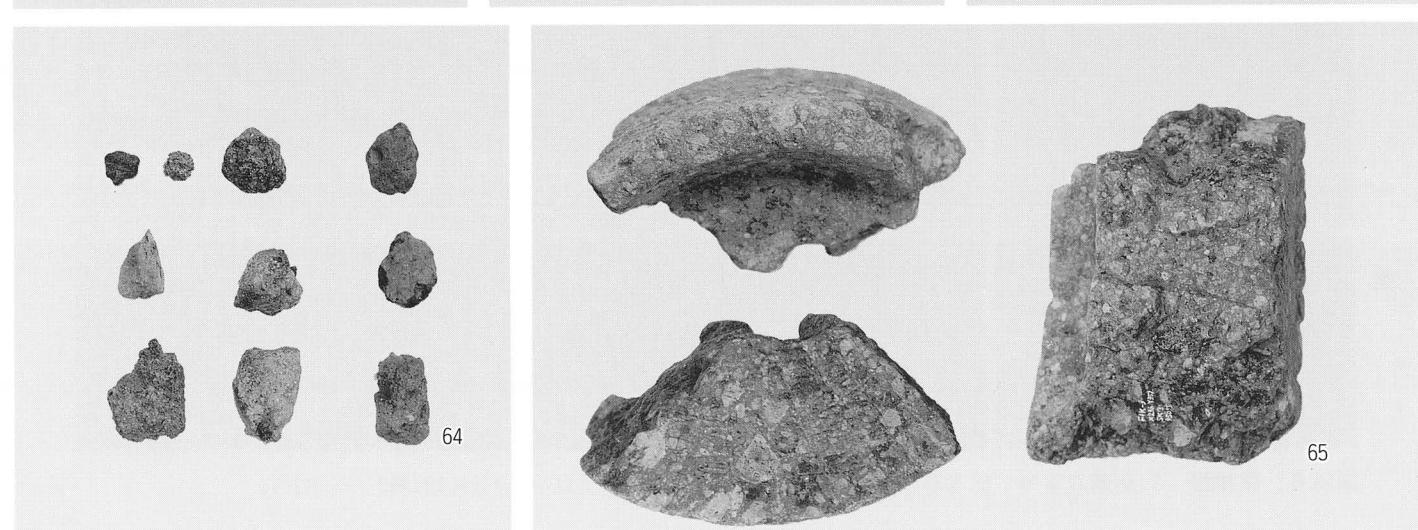
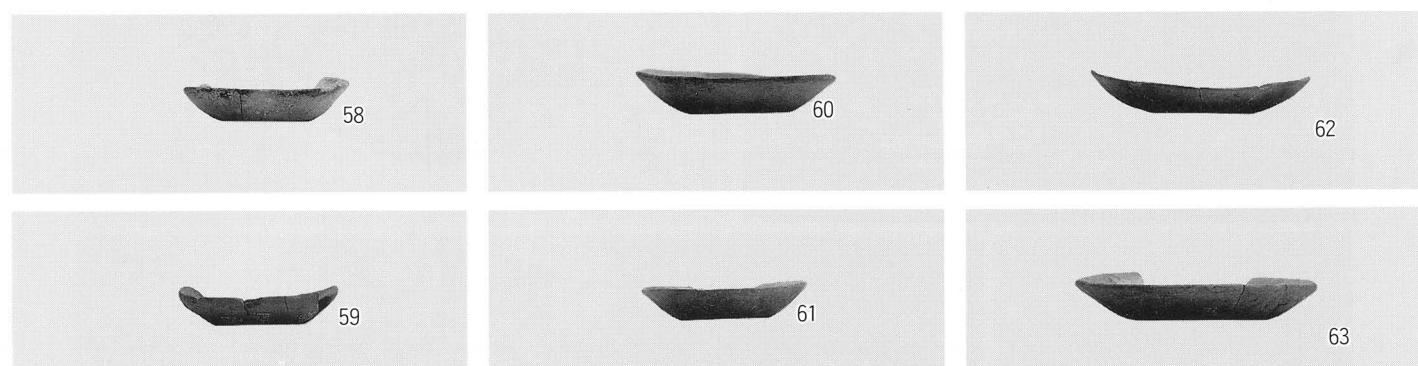
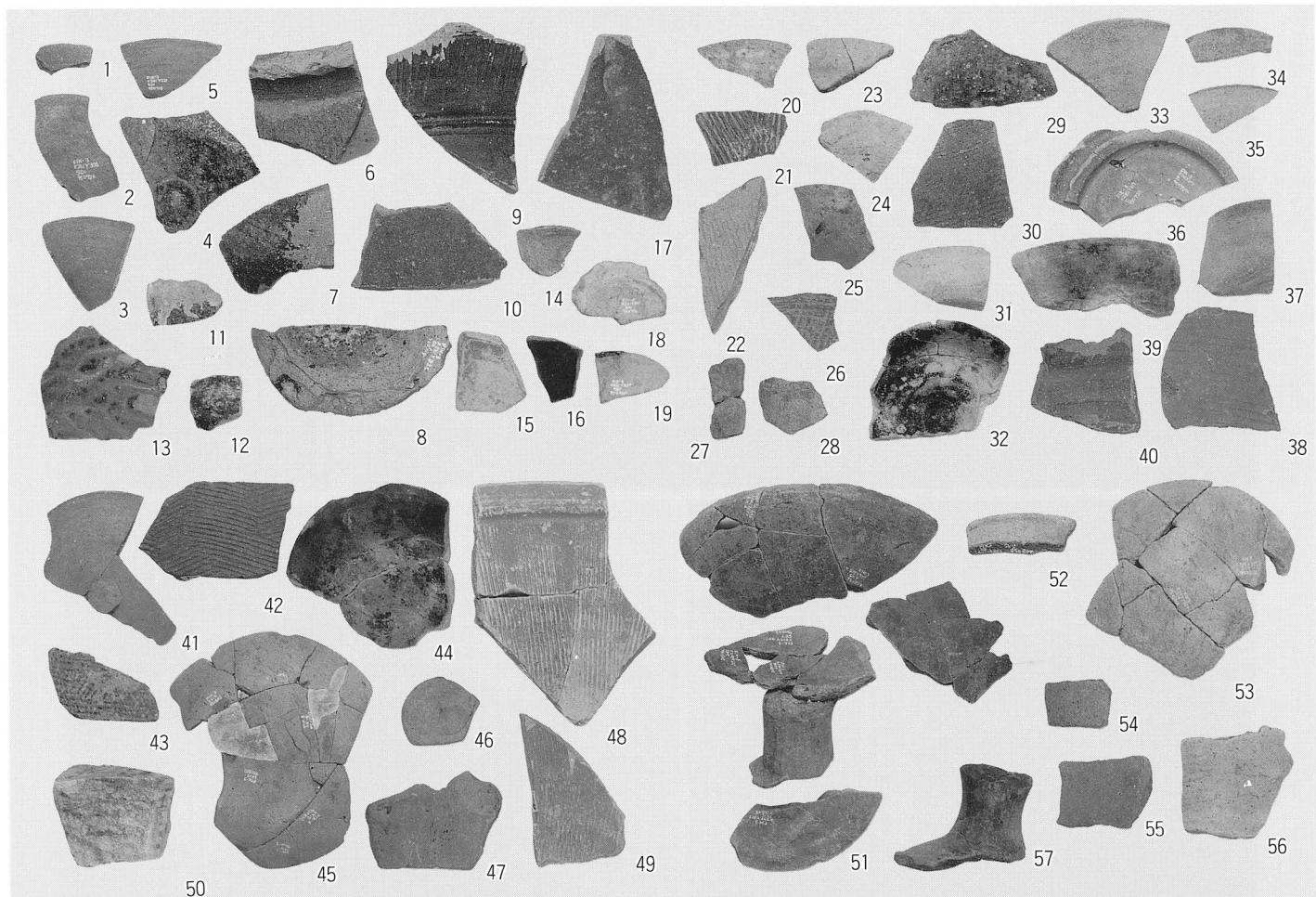
図版2 調査区全景 1.北より 2.東より



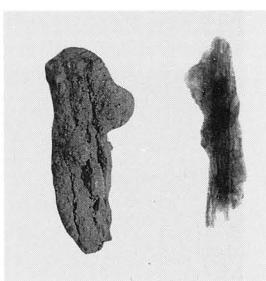
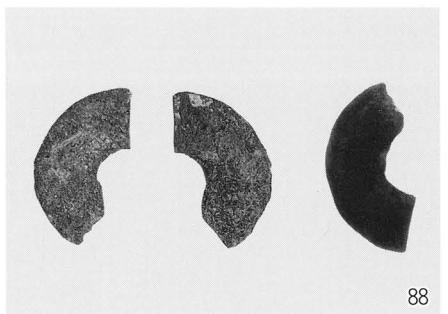
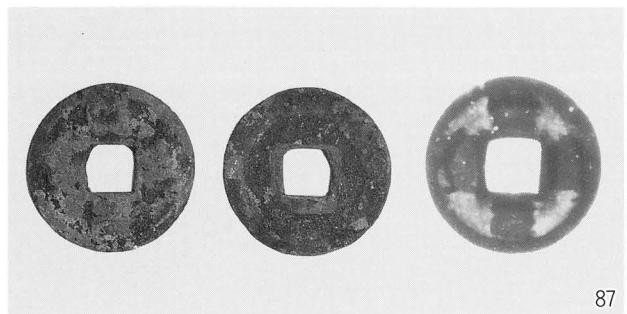
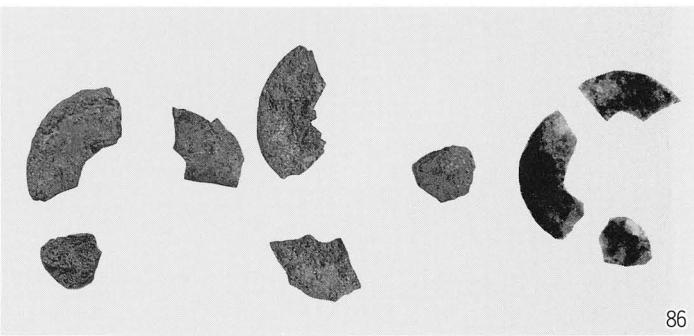
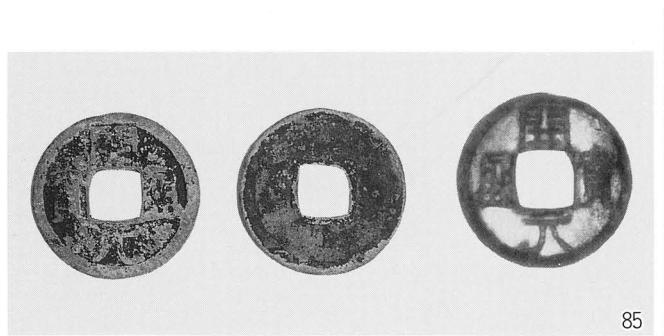
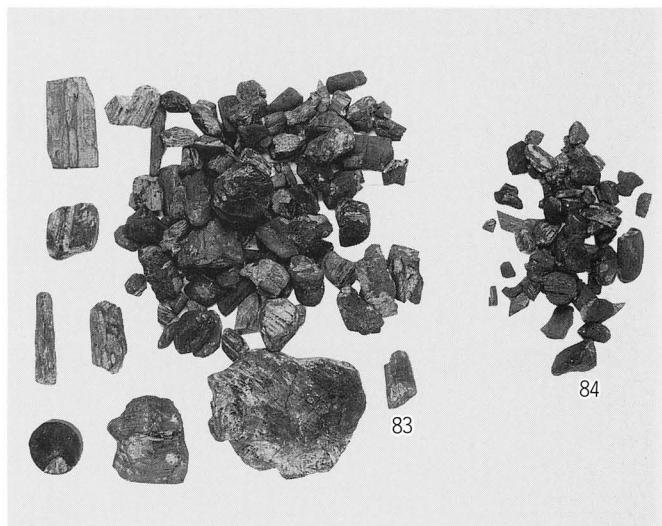
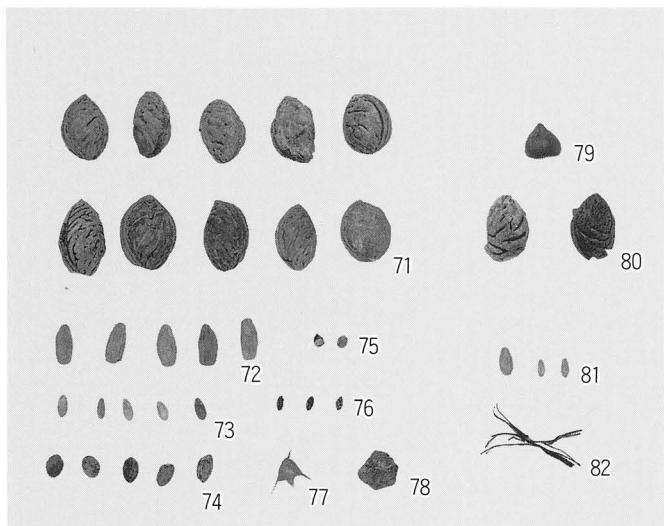
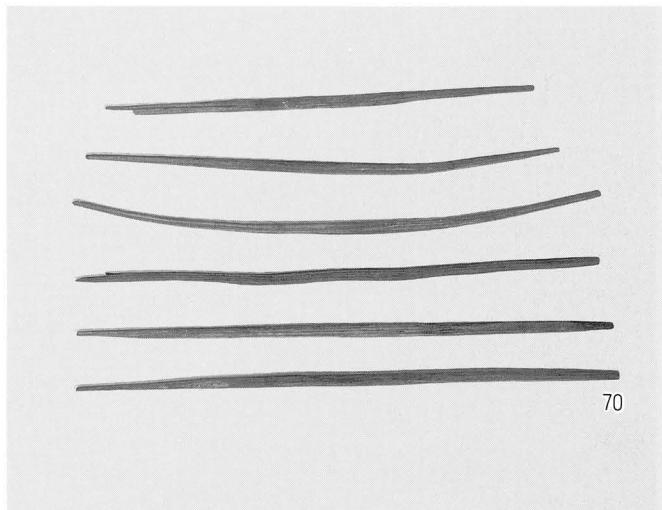
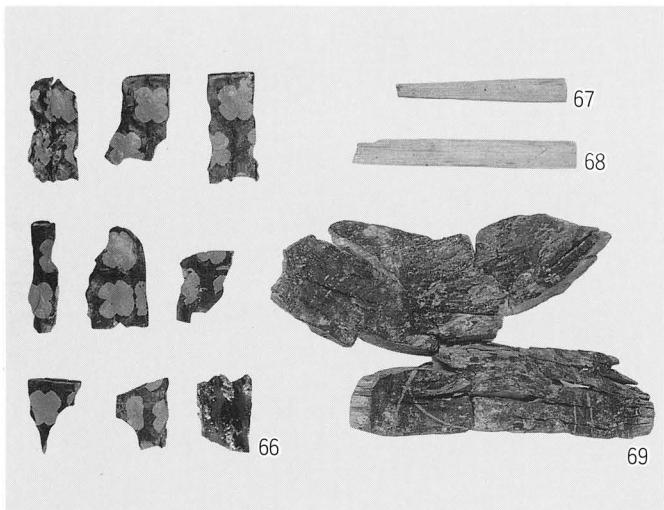
図版3 西地区 1.全景北より 2.西より 3. SD1土層西より 4. SD1出土状況



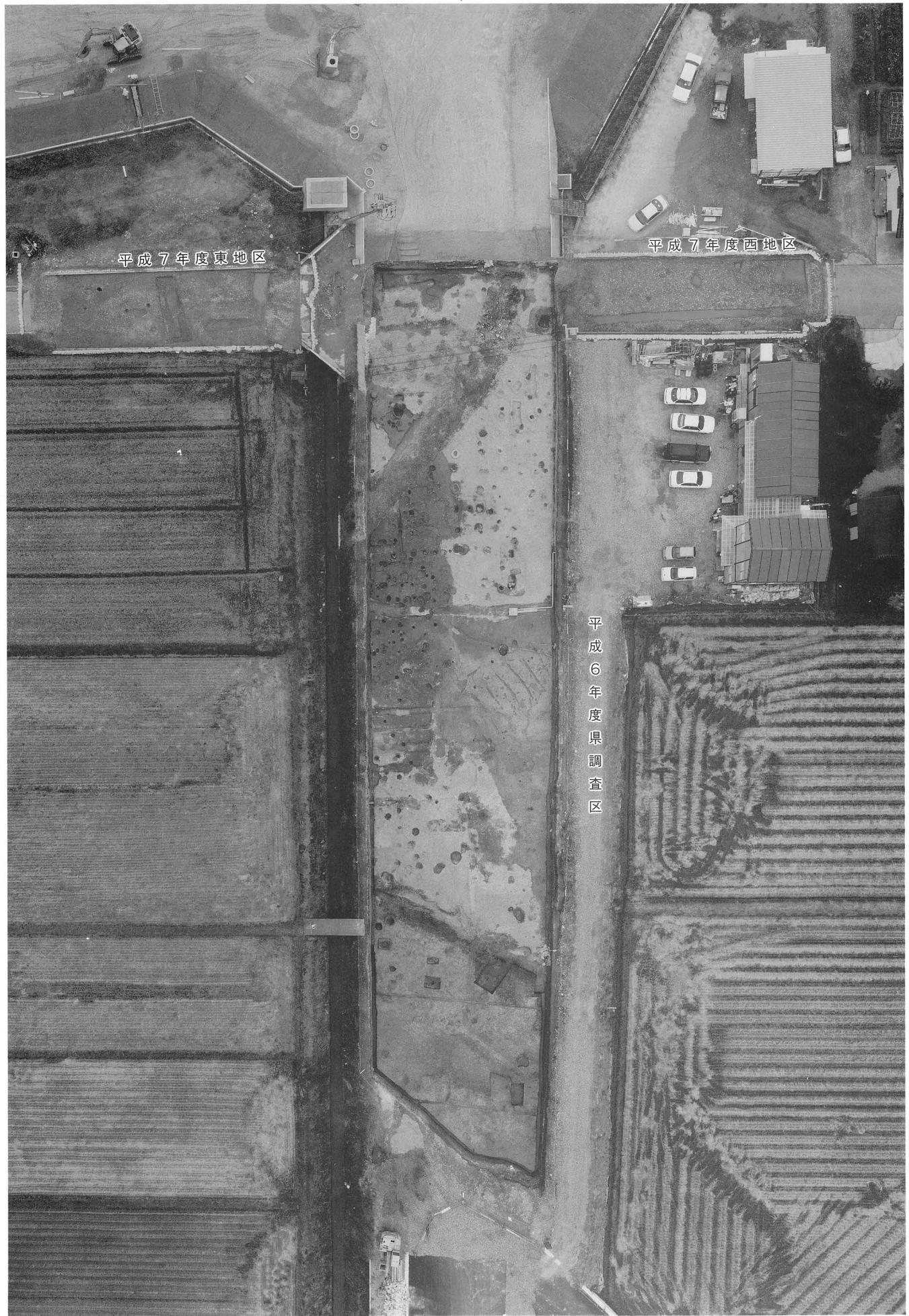
図版4 東地区 1.全景北より 2. SD18南より 3. SK13 4. SK11(手前) SK12(奥) 5. SK11



図版5 出土遺物 1~19・58~60・64: SD1 20~25: SK4 26: SE3 27・28: SK6 29: SK7 30: SK19
31・32: SK5 33~40: XY 41~50・61~63: SD8 51~57: SK7 65: SK13



図版6 出土遺物 66~69・71~78・83・86・89: SD1 70・79・80・85・87: SD18 81・82: SK3 84: SK4 88:表採



図版7 参考写真 平成6・7年度調査区全景

報告書抄録

ふりがな	とやまけんふくおかまちいしなだきぶねいせきだい じはつくつちょうさほうこくしょ							
書名	富山県福岡町石名田木舟遺跡第3次発掘調査報告書							
編著者名	橋本正春							
編集機関	福岡町教育委員会・富山県埋蔵文化財センター							
所在地	〒939-01 富山県西砺波郡福岡町大滝12 TEL 0766(64)-5333							
発行年月日	1996年3月							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コ ー ド		北緯 。〃〃	東 經 。〃〃	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
いし な た き ふね 石名田木舟	と やま けん にし と なみ ぐん 富山県西砺波郡 ふくおかまちいし な だ き ぶね 福岡町石名田木舟	16224	422080	36° 41' 20"	137° 53' 35"	1995年 7月10日～ 8月24日	540m ²	県道西中大滝線道路改良
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
石名田木舟	集落城跡	弥生古中近代 世世世	溝・土坑 溝・土坑	須恵器・土師器 珠洲・越前・金属製品・木製品				

富山県福岡町
石名田木舟遺跡 第3次発掘調査報告書

発行日 平成8年3月

編集福岡町教育委員会
富山県埋蔵文化財センター

印刷 日興印刷株式会社

